

スローライフ研究科提言

スローライフ研究科では『人生いきいき、ゆっくり ゆったり』をスローガンに、めまぐるしく駆け回る社会情勢に相反するような生活を送りたいとの願いから、カリキュラムを立てました。その中から、多可町への提言として3点まとめてみました。

1、 学外研修として金魚生産日本1をほこる大和郡山へ行きました。

郡山城を中心とした町並みが保存され、水路に泳ぐ金魚に心なごませながらゆっくりとした1日をあじわうことができました。

わが町多可町には、杉原川、野間川という美しい川が流れ、やがては加古川という一級河川につながっていきます。上流に住む私たちは大切な川の水を汚すことなく下流に送る、という使命が課せられております。

『水の妖精』といわれる梅花藻は加美区の大袋で大切に守られています。梅花藻は水温が14度前後で、綺麗な水のなかでしか生育できません。環境的条件がそろえば、中区、八千代区の水路で育てられる水生植物だと思われそうですが、いかがでしょうか。村の中を流れる小川に梅花藻がそよぎ、川魚が泳ぐ山里。きっと気持ちにゆとりを持つことができると思います。

「疎水にそよぐ梅花藻の町、多可町」と銘うって、環境学習を兼ねてもっと多くの地区に、川魚が泳ぎ梅花藻をそよがせる、ということは出来ないのでしょうか。

2、 二度の学外研修や多可町内をバスでめぐり施設や名所を見学したことを通じて、その土地に住む人がその土地を愛する心を育てることが大切であり、また、郷土愛を育てるためにはその土地を知ることが大切だと痛感しました。恐竜の里、丹波市山南町では、素朴な村人が突然発見された恐竜化石に夢を託し、ボランティアガイドとして説明にあたっていただきました。

多可町でも『ふれあいボランティアガイド』の皆さんが、多可町の施設、名所、旧跡などの説明をされております。「多可町民が多可町を知る」ということにもっと力を入れ、今稼働している『ウォッチング号』のさらなる宣伝をお願いしたいと思います。

3、 多可町には数多くの施設がありますが、民俗的な資料館がありません。農耕民族の日本人は古くから米をつくり、酒をつくり、農作物をつくってきました。多可町とて例外ではありません。過去の遺物となっている農機具、杉原紙づくりに使用していた箕桁、また高野豆腐づくりに用いられていた大きな桶、そういった伝統の道具を1か所に集めて展示することはできないでしょうか。私たちの先達が利用してきた大切な道具を保管する施設を、新しく建設するのではなく、空いている施設を利用した民俗資料館をつくられてはいかがでしょうか。